モンゴル国カザフ牧畜民社会における装飾文化継承と社会的背景
―刺繍壁掛け布トゥス・キーズの分析を中心に―

千葉大学大学院（日本学術振興会・特別研究員 DC2）
廣田千恵子

本報告の目的は、カザフ人が作る刺繍壁掛け布トゥス・キーズ（түс киіз）の物的資料および写真資料の分析をつうじて、モンゴル国カザフ牧畜民社会における住居内装飾文化継承の現状とその社会的背景を明らかにすることである。

現地調査はモンゴル国の最西端に位置するバヤン・ウルギー県でおこなった。同県の県人口の約 9 割はカザフ人が占めている（2015 年調べ）。県内ではカザフ特有の文化が日常生活と密接に結びついた形で今も受け継がれている。同県のカザフ人の主な生業は牧畜である。牧畜を専業とする世帯は、県内における全世帯の約 4 割である（2016 年調べ）。

カザフ牧畜民は季節に応じて年に 2～4 回移動する。このうち、夏期と秋期は天幕型住居キーズ・ウイ（киіз үй）にて居住する。この時期は、搾乳、乳製品製作、毛刈り、フェルト製作など畜産物の利用に関わる作業が増える時期であり、作業負担を分担するため兄弟あるいは親戚など近しい関係の人と共同で宿営する。この共同宿営には、親族ネットワーク内での良好な人間関係の維持が重要である。

カザフ人社会では共同宿営をはじめとした親密な親族関係が前提となって生活が成り立っているため、天幕型住居キーズ・ウイには親族・姻戚・友人の往来が頻繁におこなわれている。それゆえに、カザフの女性達はキーズ・ウイの内部を常に美しい状態にしておくように努め、民族文様をほどこした多種多様な装飾品で飾る（廣田 2017）。装飾の有無と質はその家庭の女性の能力と家庭そのものの経済力を評価する指標となる。なかでも、刺繍壁掛け布トゥス・キーズは評価を決する重要な指標のひとつとして位置づけられている。そのため、トゥス・キーズは社会情勢が起因してその製作が困難となった時期を経てもなお、現在に至るまで作り続けられてきた。

本報告では、1900 年代から現在にかけて製作されたトゥス・キーズ 70 点を主な分析対象とし、それらの年代、使用されている布の素材、糸の種類、文様、文様の配置、配色、製作技法、製作目的等を比較して、装飾文化継承の変遷の実態を明確にする。そのうえで、カザフ人が「美しい」と感じるトゥス・キーズを明らかにする。その「美しい」トゥス・キーズの作り手を、周囲の人々がどのように評価し、その評価が作り手の生活にどのような影響を与えるか、カザフの装飾文化の維持の社会的背景を含めて考察する。

【参考文献】

（日本語）
廣田千恵子（2017）「モンゴル国カザフ人の装飾文化」アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究叢書 15, pp89-152

【統計資料】

БаянӨлгий аймгмйн статистикийн хэлтэс(2017) “Статистикийн эмхэтгэл 2016он” Өлгий хот

Монгол улсын үндэсний статистикийн хороо(2016) “Хүн ам орон сууцны 2015оны завсрын тооллого нэгдсэн дүн”соёнбо принтинг, Улаанбаатар